



【報告資料】

第2期高知市地域福祉活動推進計画

高知市社会福祉協議会の取組

(令和元年～令和2年上半期)

社会福祉法人高知市社会福祉協議会

「ほおっちょけん」のひとづくり

○ふくしの心を育む

関心を高めるきっかけづくり

「ほおっちょけん」の住民意識づくり

「ほおっちょけん学習(福祉教育)」の拡充

→5ページ

→3ページ

○ふくしの担い手を育む

活動につながるきっかけづくり

担い手がいきいきと活躍できる環境づくり

→6ページ

○ふくしの担い手を支える

担い手の活動を支える

「ほおっちょけん」のまちづくり

○その人らしい暮らしを支える

福祉サービス利用支援(生活困窮者支援)

福祉サービス利用支援(権利擁護の推進)

在宅福祉サービス

地域福祉活動推進

○ひとがつながる場づくり

気軽に集まることができる“集いの場”づくり

身近な生活の困りごとについて考える

“話し合いの場”づくり

→8ページ

○多様な交流の機会づくり

多様な主体がつながる

○地域で共に支え合うしくみづくり

地域の生活の困りごとの解決に向けた

つながりづくり

→市と一体的に報告

大規模災害に備えるしくみづくり

→6ページ

地域の課題解決ができる協働体制(プラットフォーム)のしくみづくり

市社協の機能強化

○市社協の周知度の向上

様々な活動を通して知ってもらう機会づくり

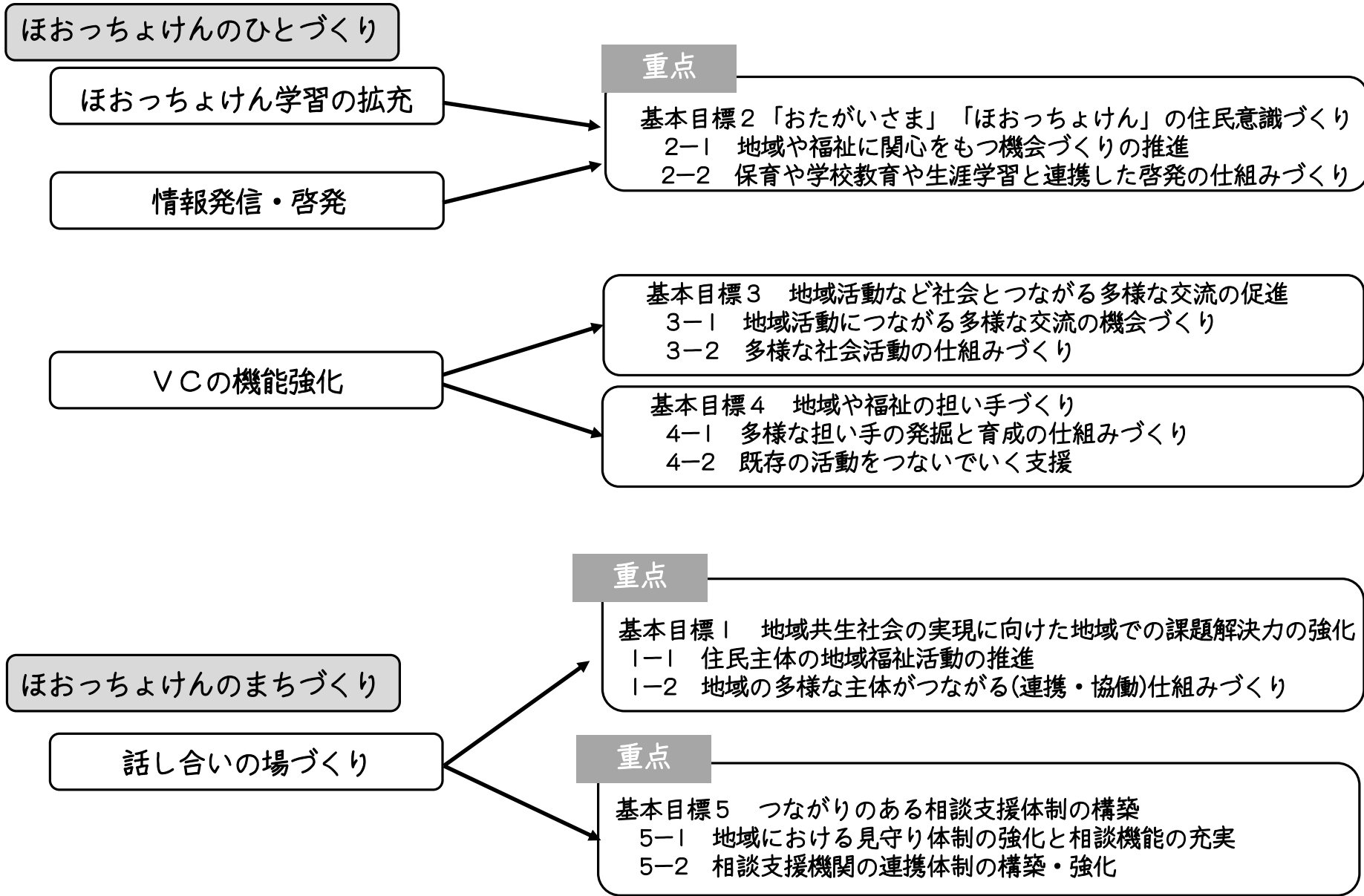
○地域福祉コーディネーターの役割

・機能の明確化

○複合的な地域福祉課題への解決力の向上

様々な相談に対応できる職員の育成

○地域福祉課題に取り組む組織的チャレンジ



「ほおっちょけん」の ひとづくり

「ほおっちょけん学習」の拡充

福祉は
「ふだんの 暮らしの しあわせ」

「体験的な学習を大切にする」
「共に生きる力を育む」
「地域の一員としての意識を育む」

ふくしの心を 育む

3

①開催数の増加と取り組みエリアの拡がり

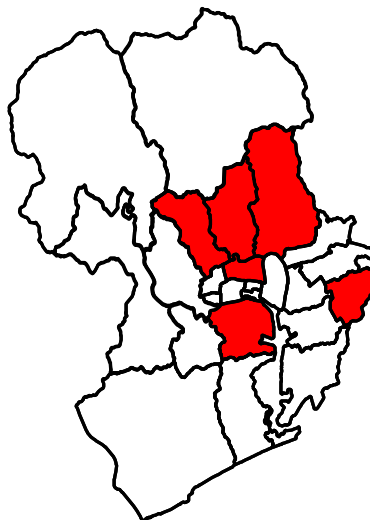
【開催数】 H30年度：14回(保育・幼稚7園，小学校7校)

R 元年度：21回(保育・幼稚8園，小学校10校)

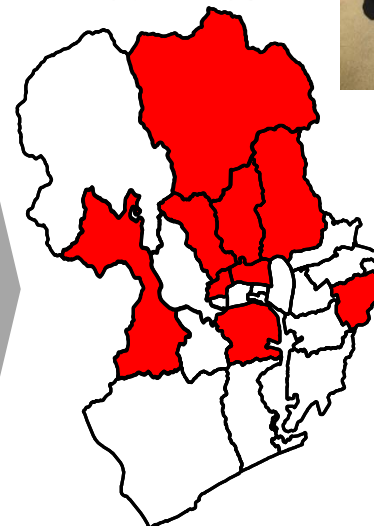
【エリア】 H30年度：6地区

R 元年度：9地区

〈平成30年度〉



〈令和元年度〉



②ほおっちょけん学習の地域展開に向けた人材の養成

NEW ほおっちょけん学習サポーターの養成(R2年度から開始)

令和元年度までに、ほおっちょけん学習に参加し運営をサポートしてくれた住民を対象に養成講座を実施。

③平成福祉専門学校における地域福祉授業

NEW 「私たちが考える地域福祉」をテーマに計3日間の日程で座学とグループワークにて学びを深めた。また、地区の敬老行事として配布を予定していた記念品に添えるメッセージカードを作成するなど、コロナ禍ならではのボランティア活動にも繋がっている。

④企業向けほおっちょけん学習の試行的な実施

NEW 「職業人として」「地域住民として」それぞれの立場で出来るボランティア活動について講義と意見交換を交えた講座をR2年度より試行的に実施予定。実施内容の検証及び企業への働きかけ方法の検討を行い、R3年度以降の年代別福祉教育プログラムの作成につなげる。



【成果】

①日常的なつながり



後日、町で会った時に『ほおっちょけんの勉強で来てくれたおばちゃんや!』と声をかけてもらえて嬉しかった。

民生委員の感想より



②将来の担い手の育成



(青パトの活動を聞いて)今は守られる方だけどいつかは守る方にもなるんだということがわかりました。

小学2年生アンケートより



③高齢者に「役割」と「出番」



「教える」ほど大したことは出来んけど、どんな風に見えるか? 聞こえるか? くらいなら話ができる。

学習に参加した百歳体操参加者の感想より



【今後の取り組みの方向性】

●年代別福祉教育プログラムの検討

- ・生涯学習の観点から特に団塊世代等を対象にしたほおっちょけん学習の実施に向けた内容を検討する。(R3年度中に実施)
- ・企業向けほおっちょけん学習の実施内容の検証及び企業への働きかけ方法の検討(R2年度中に実施)

●ほおっちょけん学習の地域展開

- ・ほおっちょけん学習サポーター養成講座の受講生への活動のフォロー体制及びスキルアップ体制の整備を図る。
- ・取り組みの全市的な展開も視野に養成をしたサポーターを核に地域展開を進める。

「ほおっちょけん」の ひとづくり

「情報発信・啓発」

関心を高めるキッカケづくり

「ほおっちょけん」の
住民意識づくり

ふくしの心を
育む

①地域福祉に関心を持ってもらう機会づくり(啓発)

- 令和元年度実績
 - ・第2期高知市地域福祉活動推進計画の説明 162回(延べ2,596人)
 - ・地域福祉コーディネーターの説明309回(延べ5,190人)
 - ・ボランティアセンターの説明150回(延べ5,509人)



- 令和2年度の取り組み
 - ・コロナ禍における地域活動に関する啓発チラシの配布
基本的な予防対策、集いの場の重要性、自宅で出来る体操を盛り込んだ啓発チラシを新たに作成。様々な集いの場等の住民が集まる場にて啓発活動を実施。
(実績)R2年4月～7月 **121回(延べ1,048人)**



②「ほおっちょけん」キャラクターを活かした広報活動



- 「ほおっちょけん」どら焼きの制作・販売
青年会議所加入企業と共同して制作。売り上げの一部は高知市の地域福祉活動に役立てる。



いま、地域で起きていること

外出自粛, ソーシャルディスタンス・・・
地域活動の中止・縮小を余儀なくされるなか、
社会的なつながりの希薄化が招く、孤立や孤独、活動意欲低下、閉じこもり

ピンチをチャンスに!

今だからこそ考えられる”つながり方”の新たな選択肢

手紙, 贈り物, 電話, オンライン etc...
「集まらなくてもつながれる方法」→「これまでのつながりに新たな要素」
日頃から集まらない状況にある人々に対するつながり方の新たな選択肢

様々なアイデアやチャレンジを共有する
つながりづくりの新たな一歩を創る

ボランティアセンター専任職員と地域福祉コーディネーターの協働体制
ボランティアセンター専任職員 → 高知市全域にかかわること
地域福祉コーディネーター → 各圏域及び各地域にかかわること

「ほおっちょけん」の ひとづくり

ボランティアセンターの機能強化

活動につながるキッカケづくり
担い手がいきいきと活躍できる環境づくり
担い手の活動を支える

ふくしの担い手を
育む
ふくしの担い手を
支える

【令和元年度】

<活動につながるキッカケづくり>

- ボランティア登録者の増加
 - ・高知市の実施する人材育成講座等での啓発
 - ・地域福祉コーディネーターの地区踏査を通じた啓発
 ⇒ 登録者：マイレージ39名、気くばりさん58名

<担い手がいきいきと活躍できる環境づくり>

- マッチング支援
ボランティアニーズの受付106件 → ボランティアのマッチング97件
- 有償ボランティア団体との意見交換会の開催
- 大学生等との若い世代との協働
- 福祉委員交流会の開催(江ノ口東地区、朝倉地区)

<担い手の活動を支える>

- フォローアップ研修の開催

<大規模災害に備える仕組みづくり>

- 行政と災害VC運営について協定締結
- 赤十字の集い(日赤奉仕団主催)にて模擬訓練の実施(103名参加)
- 高知成年会議所とNPO高知市民会議との「基本協定」を核に平時からの連携、協働体制の整備に取り組んでいる。

令和元年度の取り組みを継続しつつ、新たな取り組みを展開

【令和2年度】

<担い手がいきいきと活躍できる環境づくり>

- NEW** ●生活支援ボランティアの養成、活動支援
三里地区、一宮地区、江ノ口西地区、江ノ口東地区において生活支援ボランティア養成講座を実施。ほおっちょけん相談窓口や関係機関から寄せられる「ちょっとした困りごと」に対して試行的に活動を開始。

<担い手の活動を支える>

- NEW** ●江ノ口東地区福祉委員会 多世代交流サロン「れんこん」
高知県立交通安全こどもセンターを活用し、多世代型の交流サロンを開始

<成果及び取り組みの方向性>

【成果】

●「楽しみ」や「やりがい」, 「興味・関心」を入口とした福祉人材の発掘・育成

福祉人材の発掘・育成を進める上では、住民の「やってみたい」や「できそう」を入口とすることが効果的であり、第2期計画策定後もいくつかの取り組み(福祉委員の取り組み, 地域団体が協働した行事の実施, 福祉教育への参画等)がそのような入口から地域活動へと発展している。

また、「楽しみ」をキッカケに団塊世代の組織化を進めてきた事例においては、本来の楽しみの活動に加え、生活支援ボランティアの活動も始めており「自分たちの活動」から「誰かのための活動」へと発展していることから、前述のような働きかけが有効であるということが見えてきた。

このような事例は、自分の興味・関心から参加した住民が、地域の課題を知り「自分たちにもできることはないか」と学び・考える機会を経て発展してきたものであり、他地区への波及に向けては、このような福祉教育的な視点や中・長期的なビジョンを持って働きかけを行う必要があることが分かる。



【今後の取り組みの方向性】

- 住民の「思い」が「行動」につながる仕組みづくり
 - ・「楽しみ, やりがい」「興味, 関心」のある活動への参加による福祉に関心を高める機会づくり
 - ・得意分野別(テーマ別)の人材バンク化に向けた研修体制の整備
(令和2年度より, ほおっちょけん学習サポーターを養成)
 - ・大学生等の若い世代と協働した地域づくりの展開について検討
 - ・地域づくりの活動に参加していない高齢者への働きかけの強化

※参考

第7期高知市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けたアンケート調査より

地域づくりへの参加意向のある高齢者	→ 57.3%
地域づくりへの企画・運営(お世話役)として参加意向のある高齢者	→ 30.4%

- 「ほおっちょけん相談窓口」のモデル地区を中心に、住民の「できる範囲」を大切に生活支援ボランティアの養成を進めることで、窓口に寄せられる困りごとの解決に向けた体制の整備を進める。
(令和2年度より, 生活支援ボランティアを養成)

「ほおっちょけん」の

まちづくり

話し合いの場づくり

身近な生活の困りごとについて
考える”話し合いの場”づくり

地域の生活の困りごとの解決に
向けたつながりづくり

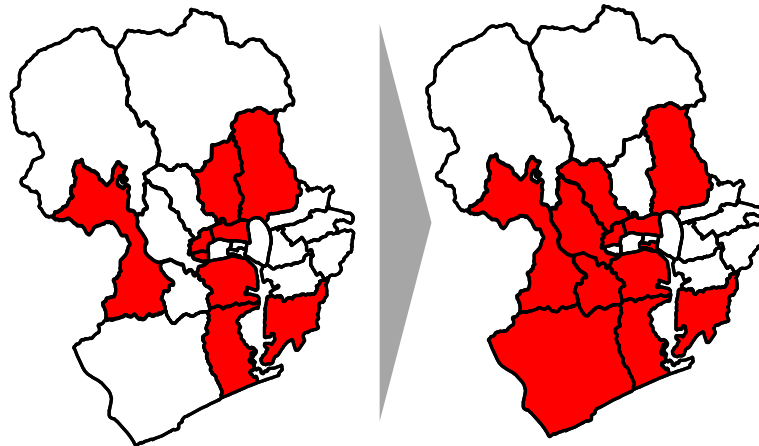
地域で共に支え合う しくみづくり

①取り組みエリアの拡がり (小地域における話し合いの場づくり)

【実績】 H30年度：9地区 → R元年度：**12**地区(168回実施)

〈平成30年度〉

〈令和元年度〉



②ほおっちょけん相談窓口と連動した話し合いの場



□ほおっちょけんネットワーク会議の開催
 窓口寄せられる相談内容や参加者が日頃
 見聞きする地域の中の困りごとを共有し、課題
 解決に向けた協議・協働の場づくりを支援。
 (実績) R2年度：2地区にて開催(江ノ口西・一宮)



(江ノ口西地区の様子)

③分野を超えた連携による課題解決に向けた話し合いの場



□社会福祉法人連絡協議会において相談窓口推進部会をち上げ、寄せら
 れる困りごとの解決に向けて法人が担うことができる役割や窓口設置法
 人の増加に向けた検討を開始している。

<成果及び取り組みの方向性>

【成果】

①小地域(町内会・自治会程度のエリア)を対象にした働きかけ

住民が「助け合いの範囲」として考えている「町内会・自治会程度(第2期計画策定に向けた市民アンケート結果において全体の47.3%)」のエリアにて重点的に取り組みを進めてきた結果、これまで取り組みが出来ていなかったエリアにおいても「話し合いの場」が広がっている。その要因として、行政区や小学校区のエリアに比べて「まとまりやすい範囲」であり、新たな活動へと繋がりやすいということ、また、同じ町内で生活を共にしている現状から「住民が抱えている課題」にも共通項が見られる場合が多く、活動の展開に向けた具体案も生まれやすいのではないかと考えられる。

②小地域における取り組みを促進する「防災」というテーマ設定

平成30年度より、いくつかの自主防災組織にて試行的に進めてきた災害時の避難支援体制の整備等に近隣の支え合いの視点を付加していく取り組みを通じて、「防災」をテーマにすることは誰もが自分事として捉えやすく効果的に支え合いに繋がるということが見えてきた。

※参考 <第2期計画策定に向けた市民アンケート結果>

「手助けできる具体的な内容」 → 「災害時の手助け」 37.1%
 「手助けしてほしい具体的な内容」 → 「災害時の手助け」 49.3%

【取り組みの方向性】

●「小地域(町内会・自治会程度のエリア)」への働きかけの強化

今後も、小地域エリアにて重点的に取り組みを進めていくことで、地域における課題解決力の強化を図る。また、話し合いの場づくりを進めていく上では、サロンや百歳体操等、小地域エリアにて取り組まれている既存の集いの場の活用も視野に働きかけを行う。さらに、これまでの取り組みやアンケート結果からも「防災」に関する住民の関心の高さが見えてきているため、行政との連携による避難行動要支援者対策との一体的な取り組みの展開も視野に地域への働きかけについて検討する。

※参考 <第2期計画策定に向けた市民アンケート結果>

「住んでいる地域における問題」 → 「地域の防犯・防災に関すること」 24.7%
 同項目の「40歳代」回答 → 32.0%

●既存の集いの場を活用した支え合いの取り組みの展開

市内370ヶ所を越える百歳体操会場や各種サロン等の中には支え合いの拠点的な機能を持っている(発展する可能性のある)会場もあり、地域の様々なニーズをキャッチする場であるとともに、時には課題の解決に向けた活動や予防的な活動等を展開する上でも有効であるため、既存の集いの場の機能強化に向けた働きかけについて検討する。

